

## 下水道って何だろう

今年度から白根市でも公共下水道事業がスタートします。処理計画区域は市内全域の1.235ヘクタール。長期間を要するこの大事業は、おおよそ30年後の完成を目標に進められます。今月からシリーズで、下水道の仕組みや計画内容をお知らせしていきます。

### ■下水道とは？

水は私たちの生活で、飲料水や台所やふろなどの生活用水、工場などの用水として、さまざまに使われます。こうして役立った水もそのまま川や海に捨てられると水が汚れて魚が住めなくなったり、ハエやカなどが発生したりして、環境を破壊してしまいます。

普段、道路の側溝や排水路を「下水路」と呼んでいますが、今日の下水道とは、人間が生活していく上で発生する汚水や、商店や工場から発生する営業上の排水をすべて終末処理場という施設に集め、きれいに川や海に戻す仕組みを指します。

### ■下水道の役割

下水道の役割は時代と共に変わってきています。19世紀までは雨水が低い所に溜まらないようにし、家庭から出る汚水を速やかに流すことがその役割でした。下水道が汚れた水をきれいに処理する施設を備えるようになると、川や海を守るという役割も備わりました。今日の下水道には次のような役割があります。

#### ●きれいなまちになります

家庭や工場などから出た汚れた水が溜まると、カやハエなどが発生したり、悪臭の原因になります。下水道は汚れた水を流し、まちをきれいにします。

#### ●衛生的な生活を実現します

し尿をくみ取り式トイレに溜めておくと悪臭の原因になりますが、下水道を整備し、トイレを水洗式にすることで、し尿は汚れた水と一緒に下水管を通して処理場に運ばれ、衛生的でさわやかな生活ができます。

#### ●川や海をきれいにします

下水道は汚れた水を集めて、処理場できれいにしてから流すので、川や海が汚れません。

### 暮らしの中から出る汚れ

台所から汚れを流すと、魚が住めるようにするには下のようにたくさんの水が必要です。

ラーメンの汁(200ml) → 風呂おけ3.3杯

牛乳(200ml) → 風呂おけ10杯

天ぷら油(500ml) → 風呂おけ330杯

※風呂おけは1杯300ℓで計算



「白根の顔となる施設を」。期待を込めて提言書を渡す伊藤会長(3月17日・市役所大会議室)。

委員会の会議や視察に同席させました。検討委員会も、「市の厳しい財政状況はよく分かる」とし、建設費を抑えるようコンサルタントと共に知恵を出し合いました。そして「これは削れる、これは絶対必要」とより良い方法を探り合いながら設計は進められました。

今回の提言書の施設では、その建設費は約二十五億円になる予定です。

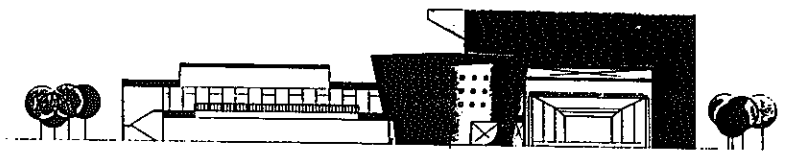
「白根の顔に」  
今年の三月十四日、検討委員会のメンバーは市役所に集まり、まとまった提言書を竹内市長に手渡ししました。伊藤栄一会長が「ようやく私たちの思いが姿となって見えてきました。ぜひ白根の顔となる立派な施設を造ってください」と述べると、竹内市長は「短期間の中、よくまとめてくださいました」と労をねぎらいつつ、「この施設から、ふるさとを大切にすることを多くの人材が出てほしい」と期待を語りました。

自らの思いと情熱をかけて作った提言書を手渡す段階になって、各委員からは、「さまざまな夢を持っていったが、財政事情もあるのですべてかなうわけにはいかなかった。だがこれは将来の白根市を見据えた最低限の施設要望と思つてほしい」、「施設を生かすも殺すも職員らしい。新しい施設を想定して、今から職員を養成していつてほしい」など、たくさんの方の意見が熱っぽく語られました。竹内市長は「貴重な提言をいただいた。十分尊重し、議会とも相談

しながら実行に移していきたい」と述べました。

生涯学習センターは平成十二年度の完成を目指して、今年度から設計業務などが始まります。工事着手は十年度を予定。建設位置は総合公園西側(しろね大風と歴史の館向かい)が候補として上げられています。

今回ご紹介した内容は、市民による建設検討委員会が市に対して提言したもので、設計内容は決定したものではありません。現在、議会内では生涯学習センター建設事業特別委員会(五十嵐仁一郎会長)が、その用地取得費、建設位置、施設内容について審査中。九月議会で報告される予定です。



連載・見えてきた拠点  
～(仮称)生涯学習センター～

⑧

# 夢をのせて… 市民検討委が提言

図書館、中央公民館、青年教育センター、理科教育センター、文化ホールの機能を備えた生涯学習センター。市は「市民の施設は市民自らが考えたものにしたい」と、昨年七月、施設の建設計画検討委員会の委員に市民グループの代表や学識経験者など十五人を委嘱。具体的な構想を市民の手にゆだねました。

委員らは各地を視察したり、希望を出し合ったりして会議を重ね、三月、最終的な提言案をまとめ、竹内市長に提出しました。

### ■融合施設

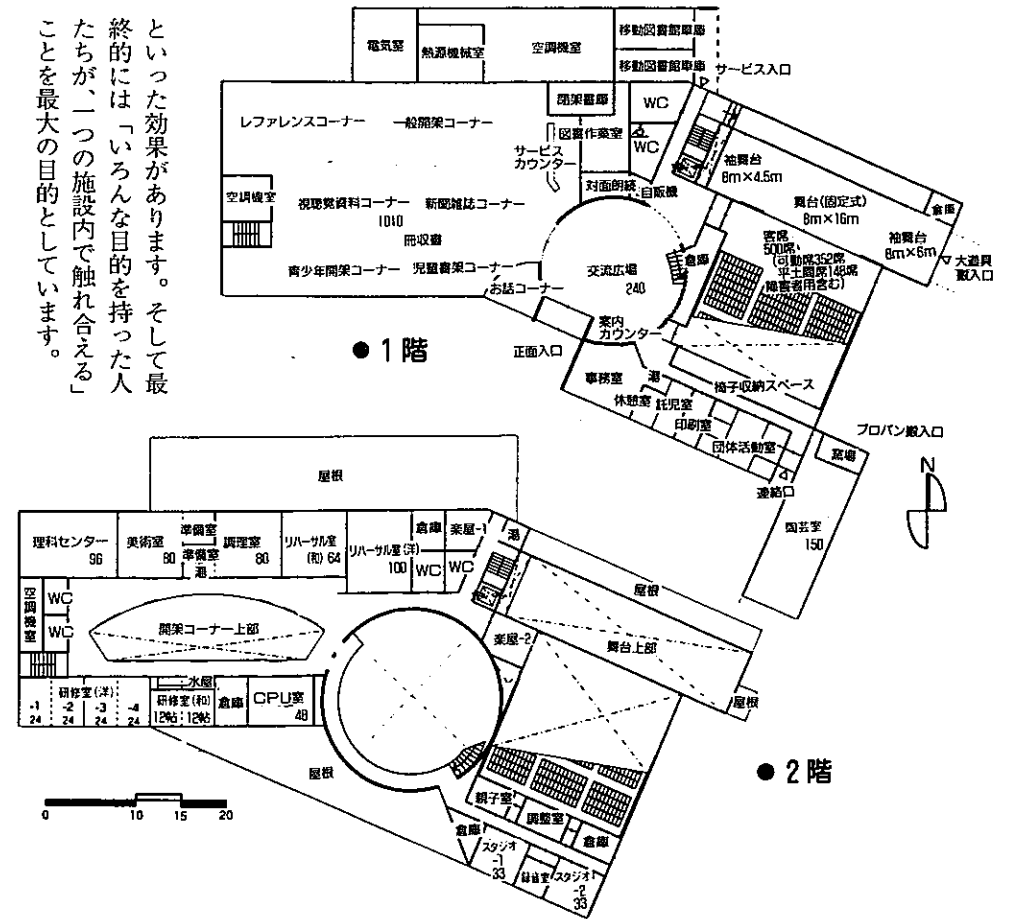
検討委員のメンバーは、「市民がいつでも、どこでも、何でも学習できるような施設とすること」を念頭に意見を交わしました。そして三月、提言書をまとめ上げました。下の図はその平面図です。

提言書によれば、この施設は図書館・公民館・理科教育センター・青年教育センター・文化ホールという五つの機能から成り立っています。部屋数をなるべく少なくし、建設費を抑えようと、一つの部屋をそれぞれ

の機能で共有できるように配置されています。

延べ床面積は四千七百平方メートル。正面入り口から入ると、丸い交流広場があり、右は約五百席の文化ホール、左が図書館となっています。二階へ上がると、理科センターや研修室、リハール室などがあります。この配置は各機能の融合を生み出すもので、例えば、「理科センターの事業で分らないことがあれば図書館へ行く」、「公民館と理科センターが一緒になって科学的催しを開ける

●市民検討委員会の提言の平面図



といった効果があります。そして最終的には「いろいろな目的を持った人たちが、一つの施設内で触れ合える」ことを最大の目的としています。

### ■建設費約25億円

検討委員会が施設を考える上で最も重要なポイントとなったのが、施設の建設費でした。

市では、「検討委員の皆さんの意見をすべて取り入れた施設を造られれば一番いいが、それではいくら建設費がかかるか分からない。あまり

巨額なものでは絵にかいたもちになつてしまふ」と考慮。「厳しい財政状況の中、少しでも建設費を安く、かつ機能を損なわないよう工夫してもらいたい。それにはある程度、専門的知識も必要」と、基本設計業務委託業者(コンサルタント)を検討